

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成 24 年 4 月 26 日 (2012.4.26)

【公開番号】特開 2011-103566 (P2011-103566A)

【公開日】平成 23 年 5 月 26 日 (2011.5.26)

【年通号数】公開・登録公報 2011-021

【出願番号】特願 2009-257722 (P2009-257722)

【国際特許分類】

H 0 4 L 12/66 (2006.01)

【F I】

H 0 4 L 12/66 E

【手続補正書】

【提出日】平成 24 年 3 月 9 日 (2012.3.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 1】

まず、図 1 を参照して、ゲートウェイ装置 2 0 0 が適用されるネットワークシステム 5 0 0 を説明する。図 1 において、ネットワークシステム 5 0 0 は、L A N 1 0 2 に接続された複数台の端末 1 0 0 と、L A N 1 0 2 と W A N 1 0 3 を接続するゲートウェイ装置 2 0 0 と、W A N 1 0 3 に接続されたコンテンツサーバ 3 0 0 とから構成される。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 4】

図 2 B において、ゲートウェイ装置 2 0 0 は、パケット 1 0 8 - 1 を受信すると W A N 1 0 3 に属するコンテンツサーバ 3 0 0 に転送するために、S r c I P (送信元 IP アドレス) 1 9 2 . 1 6 8 . 1 . 1 0 をゲートウェイ装置 2 0 0 の W A N 側 I / F (i n t e r f a c e) の IP アドレス 2 . 2 . 2 . 2 (1 1 3 - 4) に変換する。併せて、S r c P o r t (送信元ポート番号) 6 0 0 1 もゲートウェイ装置 2 0 0 が確保したポート番号 4 0 0 0 1 に変換する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 8】

図 6 を参照して、ゲートウェイ処理 (S 4 0 6) の内容について、説明する。 R T S P - A L G 処理部 2 0 6 は、まず転送方向を判別する (S 5 0 1)。上り方向の場合、 R T S P - A L G 処理部 2 0 6 は、 S E T U P メッセージ中から要求ポートの桁数を読み取る (S 5 0 2)。 R T S P - A L G 処理部 2 0 6 は、同じ桁数のポート番号を割り当てる (S 5 0 3)。 R T S P - A L G 処理部 2 0 6 は、次に割り当てたポート番号と送信元アドレス、送信元ポート番号、変換アドレスを組にして、 N A P T テーブル 2 2 0 にエントリする。最後に、 R T S P - A L G 処理部 2 0 6 は、割り当てたポート番号でメッセージを書

き換える（S505）。一方、ステップ501で下り方向の場合、RTSP-ALG処理部206は、NAPTテーブル220を検索参照して（S506）、ステップ505に遷移する。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0045

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0045】

図8A、図8Bおよび図9A、図9Bを参照して、書き換えるメッセージの内容について、説明する。図8A(a)は、端末100-1が送信したSETUPメソッドのメッセージ108A-1である。一方、図8A(b)は、ゲートウェイ200が送信したSETUPメソッドのメッセージ108A-2である。図8Aにおいて、SETUPメソッドかは、ペイロードの先頭に「SETUP」の文字列の有無で判別可能である。このメッセージのペイロードの「client__port=」に続く数値（-で区切られる場合は範囲を示す）がRTP、RTCPで用いる端末側100-1の送信元ポート番号を示している。ゲートウェイ200は、このポート番号の桁を取得して、同じ桁の変換ポート番号を割当、メッセージを図8A(b)に書き換える。

【手続補正5】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1】

